



# ニュースレター



NPO 法人大阪環境カウンセラー協会

第 20 号

Oct.2005

Osaka Environmental Counselors Association, Nonprofit Organization

「17年度上期を経過して」

理事長 高井 茂

平成17年度も前半を経過しました。光陰矢のごとしです。

なにわエコ会議事務局、エコアクション21地域事務局大阪の開設、新規事業開発、自然環境活動、環境実験教室、環境調査隊、環境情報センター管理、環境省関連、吹田支部などの活動部門など、益々、活動領域が広がり、多岐に亘る活動を続けています。

「エコアクション21地域事務局大阪」も活動体制が整い、かっちりと船出が出来、合わせて「なにわエコ会議事務局」も皆様のご協力で活動を開始しました。

本年度後半はEA21関連の一層の普及拡大が主要な課題になります。EA21地域事務局がOECAとは別に大阪でもう一つ認可されましたので、OECAの力量が問われる所でもあります。力を合わせ、英知を出し合って活動を進めて下さい。

環境省の近畿地区環境対策調査官事務所は機構が変わり、10月より自然保護事務所と一緒に、「近畿地方環境事務所」となりました。大局的にみれば、自治体の昨今の効率化に伴い、非営利活動法人に業務委託の傾向が強くなってきていて、われわれの仕事は増加する傾向にあります。鋭敏なレーダーを使って、これらの状況の変化に対応しなくてはなりません。

われわれの活動領域が拡大され、活動の場は数多くあります。OECAも一層体質を強化して、より高度な業務をこなせるように準備すると共に皆さんの積極的な参加を期待します。

## なにわエコ会議事務局の開設

この7月から、大阪環境カウンセラー協会内で「なにわエコ会議」の事務局業務を受託して日々、活動をしています。

「なにわエコ会議」は、大阪市の市民、環境NPO/NGO、事業者、行政が協働して地球温暖化防止活動を推進していくために、平成16年6月に設立された任意団体です。

「エコライフ部会」：環境家計簿を活用した省エネ運動を推進する。

「環境教育・啓発部会」：各地域や団体等で環境教育を推進するための出前講座・普及方法の検討・推進

「環境に配慮した企業部会」：中堅企業の環境マネジメントシステム・普及方法の検討・推進、

はOECAの環境教育部会、はOECA・EA21導入部門、エコアクション21地域事務局大阪等との連携を図り活動を推進しています。

この3つの部会を中心に活動する他、地球温暖化防止のために、打ち水の普及やタウンミーティングを行なうなど、実践的活動も行なっています。

事務局には、前ATCグリーンエコプラザ館長の池嶋紀子氏を事務局長としてお迎えし、高井理事長、北、塚本のメンバーで事務処理や大阪市との打合せ、広報誌「なにわエコウエーブ」の普及配布などを行なっています。

当面の大きな行事に12月に「地球温暖化防止パートナーシップフェア」が予定されており、OECAの会員の皆様にも後日、ご案内をいたしますので、ぜひご参加下さい。

事務局 塚本 勝



写真（事務所に掲げられた「なにわエコ会議」の表札。

## 環境教育部会 活動報告

平成 17 年度の環境教育部会は、(財)地球環境センター、等からの支援を受け、各地で地球温暖化実験教室や環境セミナーを実施しています。

今後の予定は以下の通りです。

10月26日	G E C地球温暖化セミナー	
10月27日	大阪市ニューアース展示会	
10月28日	大阪市ニューアース展示会	
10月31日	大阪市立天下茶屋小学校	実験教室
11月14日	阪南市立箱作小学校	実験教室
11月15日	大阪市立内代小学校	実験教室
11月29日	大阪市立鯉江小学校	実験教室
12月 1日	大阪市立中泉尾小学校	実験教室
12月 6日	大阪市立田川小学校	実験教室
12月 7日	大阪市立今宮小学校	実験教室
12月 8日	大阪市立港晴小学校	実験教室
1月11日	大阪市立佃南小学校	実験教室
1月13日	大阪市立豊崎小学校	実験教室
1月16日	大阪市立喜連北小学校	実験教室



## 6月25日 生き生き地球館 エコ縁日

縁日ということで、子ども連れの若い方の参加及び、子どもたちだけの参加も多く、お客さん(?)は子どもさんが主です。

参加型の(物を作ると言った)楽しいブースが多かったので、話を聴くだけの我が実験教室にどれだけ人が集まるのか不安でしたが2回実施し、どちらもたくさんのお客さんで賑わいました。

地球温暖化についての認識は、この実験教室を始めたころより深まっており、心強い限りです。実験によって、今まで漠然と知っていた温暖化についてより深く理解できたようで、どの子どもも満足げに帰って行きました。

学校でしたらチャイムで縛ることが出来ませんが、オープンなブースで子どもたちの興味をひきつけるのはなかなか大変です。飽きたらさっさと席を外れますので…。でも、ほとんどの子どもが最後まで話を聴いてくれ、興味深い「実験」で授業を進めていくことが、いかに大切か再認識しました。

今後もこの実験教室をますます進化させ、学校やイベントに積極的に出向いていく必要性を感じました。

執行理事 谷美也子

エコ縁日

環境教育部会 部門長 阪野 喬

## 「なにわエコ会議」環境教育・啓発部会の活動報告

大阪市との協働の一つである「なにわエコ会議」にO E C Aもエコパートナーとして参加しています。また、私は大阪環境ネットの立場で環境教育・啓発部会長を務めています。

当部会では、さまざまな取り組みを始めていますので、その活動の幾つか紹介します。

環境教育マッチングフェア(3月19日鶴見緑地公園内の陳列間ホール)

環境教育を行っている団体とこんな環境教育があったらいいなと思っている方の出会いの場として開催したものです。10のエコパートナーがプレゼンテーションとブース出展をし、O E C Aも「地球温暖化実験教室」を紹介しました。来年の3月頃にも開催を計画していますので、皆さん、是非お越しください。

E c o “愛” らんど2005(8月7日精華小学校跡地)

上記のマッチングフェアで大阪青年会議所(大阪J C)の方が来られ、青年会議所主催の「E c o “愛” らんど2005」にエコパートナー5団体が協働でブース出展をしました。

イベントへの参加

西成区アメリカンフェア、西淀川区民祭りなどにも参加しています。

講座への講師派遣

出前講座では、区の連続講座、ライオンズクラブ、地区振興会、商店街関係団体などから依頼があり、活発な活動となってきました。出前講師などの依頼がありましたらメーリングリストなどで呼びかけますので、是非ご協力をお願いします。

「なにわエコ会議」環境教育・啓発部会 部会長 宇田吉明

## 自然環境部門

9月10日本年度第1回目の野外観察会が河内長野市滝畑ダム上流で開催されました。

講師は自然環境部門の富平純さん、さすが水棲生物の専門家、入念で詳しい解説を行って頂きました。

面白かったのは木の葉を継ぎ合わせた完璧な長方形の蓑をまとったカクツツトビゲラ、建築家としても相当いい腕をもっています、そして、まるで泳ぐ枯葉のようなコオニヤンマの幼虫、たくさんのカゲロウとトビゲラの仲間その他ヨシノボリやタカハヤなどの魚類、素晴らしい鳴き声で知られるカジカガエルの子供など、参加者は8名と小人数ながら、たくさんの生き物と出会う事が出来ました。

その後は指定サイトでのバーベキュー。普段、河川火気禁止区域の違法行為を取り締まる立場の私には久々で美味しい体験でした。

この10月22日には富田林市、錦織公園にて第2弾の「樹木とキノコ観察会」が実施されます、多数の参加と好天を期待しています。

自然環境部門長 福田 裕



## “アドプトリバー加納”認定式とヒマラヤ桜植樹式

東大阪水辺再生会議として平成15年7月23日から、恩智川を昔の楽しく遊べる川に戻せるにはどうしたらよいかを会員の皆さんとワークショップを繰り返す内に、イメージがどんどん広がり、大阪府寝屋川水系改修工営所、東大阪市のご協力で、思いもかけないイベントまで開催できることになり、喜びと感謝で一杯でした。

当日（9月16日）のイベント内容などをご紹介します。

水辺の学校

- ・ 川の豆知識：どこから水が来てどこへ行くか？  
川には右・左があるのか？
- ・ 川の速さ：川の速さを調べ、どのくらいの速さで流されてしまうか？
- ・ 川の汚れ：水質を調べて、川を汚さない取り組みを考える。
- ・ 大雨の時にどのように街が守られてきたか、守っていくか。水防倉庫見学、土嚢作り体験。

東大阪市立加納小学校6年生の皆さんが参加され、講師の寝屋川水系改修工営所の皆さんが分りやすく説明・指導されました。

ヒマラヤ桜植樹式

ヒマラヤ桜（東大阪エコ桜）を5本、吉野桜を5本植樹して、東大阪に管理委譲しました。

ヒマラヤ桜は10月ごろ落葉して、12月ごろ開花するので、ほぼ常緑なので大気汚染のもとをしっかりと吸収同化する他、CO<sub>2</sub>削減に貢献することが期待できます。

アドプトリバー認定式と除幕式

“アドプトリバー加納”は、加納東公園の東側を流れる恩智川の搬入橋から唐津橋までの、

約300メートルの間を認定して頂きました。（これは60番目の大阪府認定でした。）

今後、地域の皆さんと共に清掃活動等を通じ、“楽しく遊べる川”を目指します。

東大阪市水辺再生会議 代表 松浦陽子



**大阪アドプト・リバー・プログラム**：「アドプト」とは「養子にする」という意味で、河川を「養子」、参加団体を「里親」に見立て、河川管理者（各土木事務所など）参加する地域の団体、及び地元市町村の3者で参加団体の美化内容や、河川管理者・市町村の協力、分担内容などを定めて協定を結ぶものです。問合せ先：大阪府土木部河川室 河川環境課 TEL：06-6941-0351（内線：2930）

## 「協働で、なにかいな？」

大阪市市民環境調査隊 総合アドバイザー 飯田哲也



私は平成16年度から大阪市が大阪環境カウンセラー協会に委託している「市民による環境基本計画点検・評価活動モデル事業にかかる業務委託」を担当する、総合アドバイザーとして参加している。

当事業の内容は業務委託名からイメージすると市民が大阪市の環境基本計画をエックして評価するのかわかるとは思われがちであるが、実際は大阪市が市の環境基本計画に従い実施している環境施策について、市民が実際の環境施策の実態を見て、市民の目線で「ええとこ」や「改善点」を提言し、これを大阪市の環境施策に反映しようとするものである。この提言を大阪市・市民・NPOの協働により行おうとすることが、この事業の特徴である。

従来の市民意見は市に対して「ここが悪い」、「こんなことをしてもたら困る」、「市はこうすべきだ」といったようなある種「苦情」や「評論」「能書き」に近いものが多い。市の方も市政方針や組織的な事情から「これは無理です」「そんなこと言われましても」となっている。これでは、いつまでたっても両者の「言い合い」だけになってしまい、建設的な提言としては成り立たない。

そこで、両者の間に両者の立場を理解した調整役を入れ、市の意見や考え方を翻訳して市民に伝え、また、市民の意見を翻訳して市に伝えることによって「言い合い」の内容を建設的な提言に変換することが重要視された。この役割を担ったのがNPOである大阪環境カウンセラー協会である。

しかし、ここで大切なことは、市は市民の立場を理解し、市民は市の立場を理解してお互いに「協力しあう気持ち」がないといくらNPOが中に入っても「言い合い」の域を出ない。ここに、「協働」という概念が大阪市、市民、NPOの3者で具現化することになった。

「きょうどう」という漢字を広辞苑で引いてみると次のように書いてあった。

- ・共同：一つの目的のために力を合わせること。「作業」「して事にあたる」  
あるものに対して複数の者が同じ立場に立つこと。「の敵」「使用」  
「協同(きょうどう)」に同じ。
- ・協同：複数の個人や団体が同じ目的のために事にあたること。共同。「和衷」「産学」
- ・協働：同じ目的のために、協力して働くこと。

こうしてみると、「共同」と「協同」は使い分けられているが、ほぼ同じ意味に解釈される。しかし、「協働」は「共同」、「協同」とは違うことが読みとれる。「協働」の意味の特徴は「協力して働く」という記述にあると考えられる。「協力」するためには協力する相手が存在する。その相手の立場を考え、お互いの考え方を理解しあって相手から「ありがとう」と言ってもらえるように行動することである。最後に「ありがとう」と言ってもらえない場合は「協力」したことになる。さらに、その行動は「働く」という意味であり「言うだけ」や「評論」ではなく、汗を伴う行動であることが条件である。

環境分野では「共同」、「協同」ではなく「協働」という漢字が使用されている。大阪市市民環境調査隊での市民は大阪市内に「ありがとう」と言ってもらえるような「協力する気持ち」をもって提言することが重要である。また、提言内容は市民本意の意見ではなく大阪市・市民・NPOがお互いの立場を理解し、納得し、共通部分を認識したうえでのものでなければならない。このような提言が「協働」による市民意見を取り入れた提言であり、市の環境施策に反映されるのである。

16年度は最初の試みであり、「言い合い」の状態もあったが、最終報告会で大阪市長から各市民隊員に参加証が授与されたことは、ある意味、大阪市から「ありがとう」と言ってもらえたことと解釈して良いと私勝手に想像している。今年度は「協力する気持ち」を参加市民に説明し理解して頂いたこともあり、本来の「協働」に近い活動が出来つつある。

環境分野での「協働」の定義は施策や事業内容によって個別の定義はよく見かけるが、まだ明確ではなく、イメージや感覚で理解したように思い込んでいることが多いと思う。立場や考え方の違う組織、団体、個人が協働するためには相当な努力と労力を必要とすることを経験している。しかし、これを乗り越えないと将来の環境施策は効果的なものとはならない。

「協働で、なにかいな？」と聞かれたら、私は責任やコミュニケーション云々などではなく「まずは、協力する気持ちやね」と答える。

## エコアクション21 地域事務局大阪

大阪環境カウンセラー協会を母体としまして、今年4月から「エコアクション21 地域事務局大阪」(事務局長 高井茂)を開設しました。

エコアクション21 認証・登録制度は、環境省が策定した「エコアクション21 環境経営システム・環境活動レポートガイドライン」を、財団法人地球環境戦略研究機関持続性センター(IGES)が2004年10月から「エコアクション21 認証・登録制度」として実施しています。IGESがその制度の中で各地域の認証活動を行う事務局を公募・認定していますが、OECAもこの認定・審査を受け、エコアクション21 地域事務局大阪として認定され開設いたしました。この事務局は9月の時点で、24都道府県で33局が認定・開設されました。

地域事務局の主な業務は下記をあげることができます。

1. 事業者からの登録審査の申込を受け付ける
2. 受審事業者の希望により、審査人を紹介又は斡旋する
3. 審査人より審査報告書の送付を受け付ける。
4. 判定委員会を開催して、認証・登録の可否を判定する
5. 判定委員会の判定結果を含め、事業者の認定・登録に必要な報告を中央事務局に対して行う
6. エコアクション21 制度の普及促進を図る
7. 地域の審査人の能力向上を図るための必要な取組みを行う。
8. その他エコアクション21の普及促進等のために必要な業務を行う。

また事務局開設以来、OECAのEA21 導入部門と共に色々な普及促進を行って来ています。

主なものとして開局記念事業となる「EA21 認証・登録制度セミナー」やEA21 審査人向け「力量向上研修会」、環境経営に取り組む中小企業の皆様を支援する「“エコアクション21”セミナー」、サプライチェーングリーン化拡大を支援する「EA21 セミナー」を実施しました。

6月に、IGESが「エコアクション21 認証・登録制度」の実施の一環として、自治体(市区町村)のイニシャティブの下、域内の参加事業者が一斉にエコアクション21に取り組みることにより、地域全体の二酸化炭素などの排出削減、エネルギーコストなどの削減を実現し、併せて「環境経営」の証が得られる仕組みを「自治体イニシャティブ・プログラム」として展開し、公募した結果、全国で18自治体が応募・認定され、大阪府では、大阪市(なにわエコ会議・環境に配慮した企業部会)、吹田市、富田林市が応募し認定された。

今後はこの3市の参加事業者に対し、「エコアクション21



(「自治体イニシャティブ・プログラム」全体説明会)

認証・登録制度」の実施を展開することになるが、OECA・EA21 導入部門と連携を図り活動を推進します。

事務局 北 潤明

## EA21 導入チーム 活動報告

IGESエコアクション21事務局(中央事務局)が主催する「エコアクション21自治体イニシャティブ・プログラム」への参加自治体、事業者は大阪府では、大阪市(18企業)、吹田市(11企業)、富田林市(7企業)の3市になりました。このプログラムは、地域の事業者に参加いただき、専門家のアドバイスを受けながら、一斉に環境省が策定したエコアクション21(環境活動評価プログラム)のエネルギー削減、廃棄物削減、節水などに取り組み認証を取得するプログラムで、グループに対し構築までに4回専門家が派遣(無料)される特典がある。

EA21 導入部門では、エコアクション21 地域事務局大阪の依頼を受け、8月末のIGESの募集締め切りに合わすべく、自治体と日程調整を図りこのプログラムの事前説明会を実施した。

- ・富田林市：7月14日(紙共同組合代表者説明会、北、大畑)
- ・吹田市：7月19日(吹田商工会議所、講師IGES竹内事務局長、前田、宇田)
- ・大阪市：8月18日(大阪工業大学記念館)、19日(西成産業会)(講師大畑)

「エコアクション21自治体イニシャティブ・プログラム」は05年8月~06年5月まで以下のように実施され、9月から全体説明会が既にスタートしています。

8月末	募集締め切り
9月▲	全体説明会 1回
10月	個別環境対策アドバイス 2回 (個別相談)
11月	↓
12月	取組実施方法アドバイス 1回 (専門家派遣)
1月	↓
2月	↓
3月	評価
4月	審査
5月▼	認証・登録



大阪市全体説明会

吹田市（9月28日）大阪市（9月29日）で、全体説明会を実施した。参加事業者の皆さんは緊張気味であったが、E A 2 1 認証取得の熱意が強く感じられた。

この実施体制は地域事務局大阪が I G E S の指導のもとに行い、O E C A ・ E A 2 1 導入チームが地域事務局大阪からの依頼で、対応することになった。今後の取組みとして講師は O E C A ・ E A 2 1 導入チームから 1 2 名のメンバーがアドバイザーとして対応し、また、大阪の特徴の一つになりますが、3市のまとめ役、折衝役として GM（ジェネラルマネージャ）職を創り、次の通りとした。

- アドバイザー（参加事業者への E A 2 1 を構築アドバイス） GM（3市のまとめ、折衝役）
- ・大阪市：島林（チーフ）、高橋、堀、前田、（進行役塚本） ・大畑（主）、宇田（副）
  - ・吹田市：松崎（チーフ）、前田、（進行役：吹田商工会議所 佐藤氏）
  - ・富田林市：室田（チーフ）、落合、（進行役北）

これを機会に、取組み事業者の増加が期待されるので、会員各位のご協力をお願いします。

E A 2 1 導入チーム部門長 大畑 明

## TOPICS

### 行事予定

- 合同記念シンポジウム（環境シンポジウム 5 周年記念；近畿竹資源有効活用コンソーシアム設立記念）
- 10月25日（火）13時00分～大阪府職員会館 多目的ホール（新別館北館4F）
- ニューアース展（インテックス大阪）
- 10月26日 地球環境センター主催のセミナーで省エネ実験教室
- 10月27日、28日 大阪市のブースで地球温暖化シュミレーション（実験）
- エコライフシンポジウム（大阪環境情報プラザ）
- 11月17日 13時～
- 地球温暖化防止パートナーシップフェア（中央公会堂）
- 12月5日 13時～

### 環境省近畿地区環境対策調査官事務所は機構変更

10月より自然保護事務所と一緒に、環境省近畿地方環境事務所となった。  
〒540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31 OMMビル 8F TEL: 06-4792-0700



**編集後記：**今回は、O E C A の事務所入り口は冒頭にご紹介しましたように O E C A、エコアクション 2 1 地域事務局大阪、なにわエコ会議の表札があり、これらと O E C A の関わりを分かりやすく、紹介することを目標に編集しましたが、会員の皆さんにご理解していただけましたでしょうか。活動の領域が広がると共に益々複雑になり、会員間のコミュニケーションも重要となってきました。出来る限り、ニュースレターを通じ活動の様子を分かりやすくお伝えしたいと思っています。O E C A の活動の場がどんどん広がりをを見せていますが、O E C A のホームページでも新しい情報をご紹介しますので、そちらもご参照ください。

飯田氏の「協働て、なにかいな？」も皆さんの活動のご参考になれば幸いです。皆さんのご意見をお待ちしています。（2005/10 中島記）

（このニュースレターは再生紙を使用しています）

発行者：NPO 法人 大阪環境カウンセラー協会  
住 所：〒552-0021 大阪市港区築港 2 - 8 - 2 4  
piaNPO 411 号

発行人：高井 茂  
編 集：中島延雄



TEL:06-6599-0600 FAX:06-6599-0607 e-mail: info@osaka-eca.org http://www.osaka-eca.org/